

公益社団法人 地盤工学会 室内試験規格・基準委員会

「平成 22 年度 第 3 回 議事録」

日時	平成 23 年 2 月 7 日(月) 13:30~16:50		場所	地盤工学会会議室	
委員長	古関 潤一	○	幹 事(WG7)	豊田 浩史	○
幹 事	畠山 正則	○	委 員	浅古 勝久	○
委 員	小橋 秀俊	×	委員(WG1)	細野 高康	○
委員(WG2)	太田 岳洋	○	委員(WG3,10)	藤原 照幸	○
委員(WG3)	山本 肇	○	委員(WG4)	仙頭 紀明	×
委員(WG5)	高木 宗男	×	委員(WG6)	椋木 俊文	☆
委員(WG12)	岡田 哲実	○			

○:出席 ☆:電子会議出席 ◎:代理出席 ×:欠席

配布資料

- 資料番号なし : 平成 22 年度 第 3 回 室内試験規格・基準委員会 議題書
- 資料 22-3-1 : 室内試験規格・基準委員会メンバー表
- 資料 22-3-2(1) : 英訳基準の整備状況
- 資料 22-3-2(2) : ISO 審議状況
- 資料 22-3-2(3) : ISO 覚え書きメモ
- 資料 22-3-2(4) : 日本のコンサルが海外で使用している基準書の実態
- 資料 22-3-3 : 予算の使用状況
- 資料 22-3-4(1) : 会員からの質問(コーン指数)
- 資料 22-3-4(2) : 会員からの質問(赤本誤植)
- 資料 22-3-4(3) : 会員からの質問(粘性係数比の正誤)
- 資料 22-3-5 : 基準部英文ホームページ
- 資料 22-3-6(1) : 基準部会報告(H22.11.12 開催)
- 資料 22-3-6(2) : 基準部会報告(H23.1.19 開催)
- 資料 22-3-7 : 来年度予算について
- 資料 22-3-8 : 2009 中長期ビジョンのアクションプラン設定

【 議 事 】

1) 資料の確認

- ・ 追加資料(2009 中長期ビジョンのアクションプラン設定 資料 22-3-8)を含めて配布資料の確認を行った。

2) 室内試験規格・基準委員会メンバー表の確認

資料 22-3-1

- ・ 室内試験規格・基準委員会名簿の確認。
- ・ 来年度(平成 23 年度)の室内試験規格・基準委員会メンバーについて調整した。今年度で交代する委員としては、豊田幹事、細野委員(WG1)、太田委員(WG2)、山本委員(WG3)、仙頭委員(WG4)の 5 名。

- ・ また、新任予定委員として、吉嶺先生（幹事）、小口氏（WG1）、乾先生（WG2）、塚本先生（WG4）の名前が挙がり、それぞれ内諾をいただいている旨の報告があり、承認された。
- ・ 豊田幹事が兼務している WG7（ベンダーエレメント試験基準化 WG）については、藤原委員が新たに兼務し、引き継ぐこととなった。

3) 今年度予算の使用状況について

資料 22-3-3

- ・ 今年度予算の使用状況(2011.1.31 現在)について説明された。
- ・ 集計された金額以外で、今年度中に発生する支出は、今回の委員会ならびに WG7（ベンダーエレメント試験基準化 WG）が3月に会議の予定があるのみである旨の報告があった。
- ・ WG7（ベンダーエレメント）は、公示後の基準案修正対応や解説執筆作業等で必要な作業が残っているので、年度内の会議招集が承認された
- ・ 今後年度内で新たに予算の使用予定が発生した場合には幹事に申し出ることとなった。また、今年度の残り予算の使用方法については幹事で調整することで承認された。

4) 2009 中長期ビジョンのアクションプラン設定

資料 22-3-8

「2009 中長期ビジョンのアクションプラン設定」に記述されている内容のうち、基準部の活動方針案について説明がなされた。基準部関連の活動方針案の中で、特に「室内試験規格・基準委員会」として何ができるか審議し、併せて今後の具体的な取り組み方針を決めた。

審議した内容と今後の取り組み方針は以下の通りである。

- ・ 「赤本の原則 5 年毎の改訂」については、改訂の方向性(マイナーチェンジ、フルモデルチェンジ、ISO の制定時等)を明確にし、対応していくこととした。
- ・ 「会員サービス」については、これまで通り“試験法”や“手引き”の「誤植」ならびに「会員からの質問」に対して迅速に対応する。
- ・ 「地盤環境関連の基準充実」に関しては各方面の需要を探り、対応する。
- ・ JIS・JGS・ISO の整合性についてはこれまで通り対応するものとし、ISO 委員会への協力を行う。
- ・ 「必要な基準や不必要な基準、統合すべき基準」を適切なタイミングでアンケート調査を行い抽出する。特に“使われていない基準”や“実務で足かせとなっている基準”などを見極めて対応する。
- ・ 「基準類や解説書の WEB による一般公開」については、これまでの紙ベース販売に対して収入が減少することが考えられるので、これまでの収入が確保できる方法(代わりの収入源)と平行して検討することとした。
- ・ 「女性委員の増員」を意識した対応をとる。
- ・ 「産官学が連携した基準の普及」については、公的機関の仕様書に、積極的な取り込みを図る。例えば、港湾の基準や道路橋示方書などに学会基準を引用してもらう行動をとる。
- ・ 「土木学会、他分野との情報交換の推進」に関しては、他の学会にある岩盤系の既往の

基準との統合や欧米の基準を意識し、対応をしていくこととした。

【英文基準の整備と有効な頒布・発信方法の検討】、【海外への基準・マニュアル普及】に関しては、以下に示すような審議を行った。なお、議事 10) の審議と重複する内容については、議事 10) の審議事項にまとめて記述している。

- ・ 規格・基準の英文化は積極的に対応するが、英文の質の確保から、基準ごとに個別対応する方法ではなく、信頼できる外注機関に一括依頼する方法が好ましい(課題としては資金確保)。
- ・ 規格・基準の英文化にあたっては、最新(新しく制定された基準)の英文化を優先し、その後、順次古い英文のメンテナンスを行う。ただし、JIS の英文化は規格協会と相談しながら進めることとする。

5) 会員からの質問について

資料 22-3-4(1)～(3)

- ・ 「地盤材料試験の方法と解説」中の誤植に関する 3 件の指摘があり、配布資料にまとめられているような対応を取った旨の説明があった。
- ・ 今後、委員の交代等で改訂作業に関わった委員がいなくなるため、「増刷版の原稿(最新原稿)」ならびに「JIS 審議委員会の指摘事項」、「JIS 改訂に当たっての申し送り事項」を畠山幹事が入手し、一括管理することとなった。

6) 英文ホームページ

資料 22-3-5

- ・ 学会ホームページの改訂に絡み、学会組織の英文化も計画しているとのこと。基準部や各委員会の職務、メンバー(名前や所属機関の英文)、ならびに関係する WG 等の英文について確認した。
- ・ 学会組織の英文化に合わせて、「学会基準の英文タイトルおよび英訳基準の有無」を記載したリストへのリンクを持たせてはどうか、との意見があった。

7) 土質柱状図模様の不整合について

資料 22-3-3

- ・ 柱状図絵模様の不整合の解消をお願いしていた件について、浅古委員より現状報告をいただいた。
- ・ 現状は不整合に至った「改訂経緯」と「柱状図絵模様を改訂した場合の影響性」の二点について調査・確認中で、その結果を受けて、CALIS/EC 推進本部作業部会に諮る予定である旨の説明があった。
- ・ ただし、作業部会は、多岐にわたる部署で構成され、また、多くの案件を抱えているので、時間がかかっているとのことであった。
- ・ この問題については、今後も継続審議することとなった。

8) 来年度予算について

資料 22-3-7

- ・ 委員会の来年度予算については、今年度並みの予算は確保できそうである、との報告がされた。
- ・ しかし、来年度は、WG7(ベンダーエレメント試験基準化 WG)、WG12(岩の繰返し強度

試験基準化 WG)が活動予定にあるので今年度以上の支出が予想される。予算の使用にあたっては、委員が集まる全国大会などの機会を有効に活用していただき、効率的な運営をしていただくこととなった。

9) 基準部会報告

資料 22-3-6(1)、(2)

基準部会(平成 22 年度 第 4 回, 5 回)において、「室内試験規格・基準委員会」に関する案件について報告された。

- ・ CEN アジア版組織の構想として、①世界の地盤データベース構築、②JGS ISO 基準について検討されているとの報告がされた。
- ・ 新設委員会として、地盤工学用語規格化 WG(地盤工学用語の JIS 化)が設立されることと、「岩石の繰返し強度試験方法基準化 WG」の 23 年度新設が承認された旨の報告があった。
- ・ 上記の WG 新設に関して、前年度に予算計上していない場合でも、“予算に余裕があれば WG の設立が可能”である旨の報告がされた。
- ・ 「ベンダーエレメント法による土のせん断波速度測定方法」の基準文については、一部修正を条件に承認されたことの報告がされた。
- ・ 「地盤材料試験の方法と解説」は初版 2000 部、その後 1000 部増刷されたこと、ならびに「土質試験－基本と手引き－第 2 回改訂版」については 8000 部印刷された旨の報告がなされた。
- ・ 23 年度予算については、第三次案まで審議されたが、三次案で決着しそうである旨、報告された。
- ・ 「地質図 JIS 改正原案作成委員会」から委員派遣の依頼があり、前回改正時に派遣した三田村先生(大阪市大)を今回も派遣することとなった旨の報告があった。当委員会としては、柱状図絵模様の不整合について対応していることもあり、改正原案作成に関する情報収集をすることとなった。
- ・ ISO 国際会議後の報告について、必要な情報を各委員会に的確に流れる仕組みを検討してもらうべきとの意見があった(基準部会で審議してもらう)。
- ・ 海外への基準・マニュアルの普及(英語版基準のニーズ、英文化の方策、公開方法)等について各委員会で意見を集約することとなった旨の報告があり、審議は議題 10)でまとめて行った。

10) 英訳基準の見直しと公開方法について

資料 22-3-2(1)～(4)

- ・ 配布資料(1)～(4)について説明がなされた。
- ・ 現有基準の英訳は、歯抜け状態で存在している。しかし、作成された年度が古く、そのほとんどが古いバージョンのものしかないので、早急に英文化を進める必要がある、との報告がなされた。
- ・ 室内土質試験、地盤調査関係の国際標準化に関する進捗状況報告がなされた。土の識別(Identification of soil)や分類方法(Classification principles of soil)に関しては既に国際規格化されていること、ならびに、今後、JIS・JGS の対応が迫られることの報告がなされ

た。

- ・ 当委員会としては、ISO 委員会と協力し、審議中の案件に現有の JIS・JGS を盛り込んでもらうような活動をしていくこととなった。
- ・ 実務者が海外で使用している基準の多くが ASTM であるとの報告がされた。また、ASTM や BS 等の基準類には、日本の「赤本」や「青本」にあるようなデータシートならびに試験結果の例が掲載されていないものが多いので、規格・基準の英文化に加え、データシートについても英文化し、公開することによって、活用度が高まるとの意見があった。

【基準部報告案件を審議し、以下の方向性が示された】

- ・ 英語版基準のニーズはある。(十分にヒヤリングはしていないが)
- ・ 公開、販売方法については国際戦略等を考慮し“無料”とすることが望ましいが、費用をどうまかなうかで、対応が異なる(関係する機関等からの寄付か学会の持ち出しかによる)。例えば JIS や ASTM のような、“閲覧無料”、“ダウンロードに対して課金”するなどの方法も考えられるので、今後協議しながら対応する。今後も継続審議とする
- ・ 公開のための準備は、ネイティブチェックもかねて基準にふさわしい英文とする。そのためには、信頼できる業者に外注して行うことが望ましい。費用はスポンサーを見つけて対応する。また、公開にかかる費用は、維持費等を考えると、スポンサーを探して対応する方法がよい。
- ・ 外注のための費用確保にあたっては、ISO 委員会活動の妨げにならない新たなスポンサー確保が今後の課題である。例えば、今まで使っている規格と異なる規格(ISO)が日本に入ってくることによって影響をうける機関(国交省・経産省等の国の機関、調査・設計・施行業者等)が候補として挙げられた。
- ・ 候補先には、ISO への移行による問題点を整理(例えば、標準貫入試験ではこんなことが起こっている等の問題点を整理)し、情報発信することが必要との意見があった。

以上